

# 公益社団法人 全国出版協会 2023年度 事業報告

## 1. 一般情勢

当協会・出版科学研究所調べによる2023年の「紙」と「電子」を合算した出版市場規模推計は、前年比2.1%（342億円）減の1兆5,964億円と2年連続の前年割れとなりました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、旅行・レジャー産業等が回復する一方、23年も物価高が続き、出版物の販売に影響を及ぼしました。

紙の出版物販売金額（書籍・雑誌）は前年比6.0%（680億円）減の1兆612億円。内訳は「書籍」が同4.7%（303億円）減の6,194億円、「雑誌」が同7.9%（377億円）減の4,418億円です。

書籍は上半期の不振から下半期はやや持ち直し、ジャンル別では明るい兆しも見られました。書店店頭の流れ行きは文芸書が前年を上回り、学参や地図ガイドも健闘しました。ベストセラー銘柄をみると『大ピンチずかん』や『パンドロぼう』シリーズ、『小学生がたった1日で19×19までかんぺきに暗算できる本』など、子ども向けの書籍が上位に並んだのが23年の特徴です。しかし、児童書をはじめ、ビジネス書や文庫・新書など全体では厳しい結果となりました。

雑誌の内訳は「月刊誌」が前年比7.2%減の3,728億円、「週刊誌」が同11.3%減の690億円。創復刊点数は過去最低の25点。一方『週刊ザテレビジョン』、『週刊朝日』など歴史ある雑誌が休刊しました。コミックスはアニメ化『【推しの子】』や『葬送のフリーレン』などがヒットし、『ブルーロック』、『呪術廻戦』なども引き続き好調でしたが、全体では前年の規模に及ばず、既刊も伸び悩みました。

電子出版の市場規模推計は前年比6.7%（338億円）増の5,351億円。伸び率こそやや鈍化しましたが、引き続き堅調な成長を示しました。内訳は「電子コミック」が同7.8%増の4,830億円、「電子書籍」が同1.3%減の440億円、「電子雑誌」が同8.0%減の81億円。電子市場における「電子コミック」の占有率は90.3%と圧倒的です。ストアオリジナルや出版社と協力した独占・先行配信の強化、縦スクロールコミックも好調で全体を牽引しています。また、紙+電子市場の占有率は紙が66.5%、電子が33.5%。出版市場の3分の1を電子が占めました。

## 2. 協会活動の概況

2023年度の経常収益計は4,382万円（前年比63.8%、予算比107.8%）、経常費用計は4,067万円（前年比66.0%、予算比92.7%）、当期経常増減額は315万円でした。この結果、正味財産期末残高は3,138万円となりました。入会は2社、退会は1社、会員数は前年よ

り 1 社プラスの 95 社 98 名となりました。

2023 年度より、従来の多額の寄付金に頼る体制をあらため、今後の持続可能な事業体制を構築すべく、事業の抜本的な見直しを行いました。

① 刊行物の見直し

- ・『ニュースの索引』の休刊
- ・『出版月報』の季刊化（『季刊出版指標』年 4 回刊へ）、
- ・月次出版統計データのデジタル提供
- ・刊行物の頒価改定 『出版指標年報』頒価 14,850 円→19,800 円（税込）  
『出版月報』頒価 2,200 円→『季刊出版指標』4,400 円（税込）

② その他事業見直し（出版セミナーの当面休止）

③ 人員減を含む経費削減

人員減など体制変更の過渡期となることから、23 年度予算は▲324 万円のマイナス予算でしたが、結果、当期経常増減額は 315 万円と予算に対し 639 万円のプラスとなりました。

収入面では、事業収益の大半を占める刊行物頒布による収入が 1,610 万円と予算に対し 146 万円のプラスになりました。月次統計データ「出版指標マンスリーレポート」PDF 版の提供を行い定期購読の減少を抑えられたこと、『出版指標年報』の値上げ効果もあり、予算を大きく上回りました。

正会員会費計は 970 万円（前年に対しプラス 10 万円）、（株）トーハンからの寄付金は 1,800 万円（前年に対しマイナス 1,600 万円）となりました。

支出は、刊行変更による刊行物発行費や人件費の圧縮等により前年に対し 2,095 万円のマイナス、予算に対し 320 万円のマイナスと大幅に減少しました。

### 3. 会員状況

会員数 95 社 98 名（2024 年 3 月末現在）

入会 晶文社、有斐閣

退会 評論社

### 4. 出版物に関する調査研究成果の発表

（1）出版物に関する調査研究をもとに、以下の刊行物を発行しました。

1) 定期刊行物 2 点

季刊出版指標	（季刊）	4 冊
出版指標 年報 2023 年版	（年刊）	1 冊

全協会員社および定期購読者に月次統計データ「出版指標マンスリーレポート」PDF 版の提供を行いました。

2) 刊行物購読口数 (24年3月末現在)

全誌購読コース 160口 (対前年 2口増)

季刊出版指標コース 245口

5. 情報提供 (レファレンスサービス・取材対応)

(1) 照会件数

照会先・取材先	件数	照会先・取材先	件数
出版社	22	出版団体	2
新聞社	56	書店	3
テレビ・ラジオ	53	学校・学生	15
一般個人	16	印刷・製本・用紙	1
研究・調査機関	24	図書館	2
取次会社	40	業界紙	2
官公庁・自治体	2	諸団体	4
広告代理店	1	電子出版関連	5
金融・証券	5	Webニュース	4
		合計	257

(前年度照会件数 283件)

(2) 照会方法 電話 131件、メール・HP お問い合わせフォーム 81件、来所 27件、ZOOM 等 18件

6. 文字・活字文化の振興および啓発

高橋松之助記念顕彰財団の活動に人的協力を行い、第16回「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」贈呈式をはじめとする顕彰事業の協賛をいたしました。

以上